

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム永山亭		
所在地	旭川市永山4条22丁目4番12号		
自己評価作成日	平成25年11月17日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901852-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一般浴の他に、車椅子の方が安心して入浴できる機械浴を設置しています。機械浴の浴槽は、ヒノキで作られており、心身共にリラックスする事ができます。又、開設当初より、各ユニットごとにパピヨンとダックスフンドを飼育しており、入居者の方の役割として餌やおやつをあげて頂いたり、入居者の方やスタッフの癒しとなり、毎日楽しく生活して頂いています。町内会の行事等にお声を掛けて頂いた際は、利用者の方とともに、積極的に参加させて頂き、地域との交流を深めています。ケア理念に沿って、入居者の方に安心とゆとりのある生活を送れるよう、1人1人のペースや意思を尊重し、スタッフ自身笑顔を決やさず、明るく楽しく支援させて頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このグループホーム「永山亭」は開設から9年が経過し、開設当初から利用されている方も高齢になり、ケアの内容も変化してきている。職員は利用者の現状に合わせた関わり方の検討を積み重ね、利用者がのんびりと笑顔で暮らせるように、残っている力を少しでも発揮出来るように、明るく楽しく暮らしてほしいと考えている。当初から設置の機械浴をフル活用することで、入浴困難な方にも入浴を楽しんでもらったり、目の前で調理している食事の匂いを感じ取り食欲に繋げたり、外出で動物園や海にも出かけている。管理者と職員はグループホームとしての在り方をいつも前向きに捉え、利用者にとって良き住まいとなるように検討している。地域住民との信頼関係も構築しており、推進会議での意見交換や避難訓練の時の協力も得られている。町内のお手伝い、近くの大学の学生との交流やボランティアで敬老会に来てくれたり、ホーム関係者以外の関わりも大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(ユニット1アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作りホーム内に明示しており、理念の実践に向け職員間で共有している。	安心とゆとり・明るく楽しい・その人らしさ・地域環境作りを盛り込んだ判り易い理念が掲げられ、職員は無理強いことなく、少しでも笑いが出るように利用者と接している。重度化も進み各ユニットの状況は違っているが、現状に合わせた理念の実践が進められている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事など利用者の方と職員も共に参加し地域との交流に努めている。	町内会に加入する事で関わりを大切にし、日常の挨拶や廃品回収に参加する事で信頼関係作りを努めている。町内で開催される花見や夏祭りイベントにも利用者と一緒に出かけ、地域の方との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る限り地域の行事に参加し地域住民の方々と交流を努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進鍵にてご家族様、他施設職員、町内会長や近隣住民の方々から意見を頂き事業所の向上に活かせるように取り組んでいる。	前回の課題でもあった推進会議の開催については、定期開催を年次計画の中で定め、計画通り開催している。家族会・町内会長・知見者・行政職員の参加により事業や活動内容の報告、避難訓練についての意見交換が活発に行われ、ホームの運営に活かしている。	運営推進会議での検討は、利用している家族や地域に開かれたサービスの実践、ケアの質の確保を図る事が目的であり、議事録を出席されていない家族全員に配布する事で、情報を共有する事が望まれる。検討してほしい内容が提案し易い取り組みにも期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは定期的に連絡を取り、相談や報告を行っている。	地域包括支援センターから毎月通信の配布で直接訪問があり、現状報告もしている。包括主催で定期的に会議の開催や勉強会、他のGHや小規模との交流もあり情報交換を行っている。行政の窓口には直接出向き、手続きや問い合わせ等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングや各自の勉強などで、どのようなことが身体拘束の当てはまるのか、身体拘束をしない支援とは等と考え、該当事例が発生した場合は、カンファレンスを開いて検討している。	永山亭マニュアルもあり、身体拘束の内容についてスタッフミーティングで常に話し合い、事例を通して何が拘束に該当するのか、身体拘束のないケアは何なのかについて確認している。ヒヤリハットを日常記載する事で気付きに着目し、今後はより良いケアにつながるよう個々に検討が出来る方法を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングや日々の話し合いにて、研修などで得た知識を共有し、また状況に応じて対応を検討し言葉遣いや態度に注意し防止に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる研修に参加できるよう対応しミーティング等で参加した研修について報告や勉強会を行い、知識をスタッフ内で共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文章とわかりやすい言葉で、利用者・ご家族様に詳しく説明し、納得して頂いてから契約に至ってる。また質問や疑問点があれば、丁寧に答えられるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、ご家族様から意見を聞き出せるよう声かけをしている。また、苦情や意見があった際は全スタッフが速やかに対応できるように、話し合い行っている。	面会時には日常の様子を伝え、要望を聴ける雰囲気作りにも努めている。家族会を年1回開催しているが、今後は推進会議の会議録配布で議事案の要望と、家族のみが話し合える時間を作り家族会としての意見が言える環境を作りたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、申し送りの際や連絡ノートを用いて意見や提案など話し合う場を設けている。また、代表者からスタッフへのコミュニケーションも積極的にあり意見を言いやすい環境になっている。	毎月各ユニット会議、3か月に1度合同ミーティングを開催し、職員から意見や提案を聞ける機会を設け運営に反映している。管理者は職員一人ひとりと面談の機会を作り、個別の話し合いの機会もある。社長は月に2~3回訪れ職員と積極的にコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格修得により昇給昇格がある。また業務内容をスタッフの考えに任せ、向上心や責任感をもって就労できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などスタッフが参加したいのがあれば積極的に参加させてくれている。また、ミーティングにてスタッフの勉強会発表の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加にて同業者との交流の機会があり、サービスの質の向上を高めていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族様からアセスメントを取り、不安な事や要望に応えられるよう常に利用者のお話を傾聴し、コミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の際に、ご家族の思いを聞き、不安な事、要望等に耳を傾けながら、今後の関係性へと繋げられるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の問題を把握しご本人とご家族様と相談しながら何が必要かを考え利用者個々に合わせた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや調理のお手伝いなどをして頂くなど、日頃からコミュニケーションを重視し信頼関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度写真を掲載した通信をご家族に送付し近況報告や受診時の結果報告等行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方はいつでも面会に来て頂けたり、コミュニケーションを通して、馴染みの場所など聞き出せてはいるが、特定の利用者しか外出できていない。	家族の面会も多く、友人・知人の訪問もある。時には職員が間に入り、会話や様子を伝える役目を果たしている。仏壇の持ち込みもあり、自分でお経を唱えている場面、直接僧侶の来訪もある。読書好きな方、折り紙が趣味の方も職員が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で好き嫌いがはっきりとしているのでトラブルにならないようレクリエーション等行う際はスタッフが間に入り、利用者1人1人に気を配り全員で楽しんで頂けるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を通して、1人1人の希望や意向を把握し、少しでも希望や意向通りになるよう、また無理強いないよう努めている。	センター方式の活用で、状態の変化に合わせてアセスメントを繰り返し行っている。定期的に写真を取り、表情の移り変わりも把握している。意思の把握困難な利用者については、過去の経歴を特に大切にし、利用者本位の対応を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から得た情報や、日常のコミュニケーションの中で得た情報をスタッフ内で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の過ごし方や状態を日々、コミュニケーションや観察にて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録にてモニタリングを行い、本人・ご家族の意向を踏まえチーム内で話し合いをし介護計画の作成行っている。	更新時や変化がある時には、家族とは面会時に次期計画作成について話し合い、計画作成者は職員と一緒にモニタリング・評価する事で、新しい現状に即した計画を作成している。日々の記録は計画に基づいたケア内容を常に確認し、職員は特記事項で日常の気付きを記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をケアプランに沿い記入し、何かあった際は特記事項に記入スタッフ間情報を共有しやすく、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化があれば、スタッフやご家族と話し合いを行い、ニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内の行事やお祭り等積極的に参加し、季節に合った行事を行い、楽しんで頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望に沿って対応し、往診対応の利用者に関しては特変時医師に連絡し指示を得て、対応している。	基本的には利用前の主治医継続となっている。2階は重度化が進み、主治医について家族と十分に話し合い、検討の結果主治医の変更があり往診対応となっている利用者もいる。他の科については家族やホーム側で受診対応し、受診後の報告も電話で直に連絡、通信でも個別に記載している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員へ週2回の健康相談や、往診の方は訪問した看護師に状況報告し、主治医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会や病院と連絡を取り、状況の把握に努め、ご家族とも相談し早期退院を目指した対応が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の方の意向を尊重できるように主治医と相談し連携を図っている。また、本人の苦痛や不安を軽減し、ご家族の方も不安にならないように都度説明等を行っている。	看取りの経験も複数あり、看取り状態になった時は、家族や主治医、職員と十分に話し合い、意思統一を図る事で対応している。ホーム独自のマニュアル「重度化・看取りに関する指針」を用意する事で、職員に対してもミーティングや勉強会で周知・確認している。また、看取りの講習にも積極的に出かけ、職員に伝達している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にて、応急手当や初期対応の講習を受けているが、全スタッフではないため、マニュアルを作成しており、マニュアルにて再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の参加や協力も得て、日中や夜間を想定した避難訓練を定期的に行い、消防設備点検も行っている。	年2回日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。消防署からは、火災現場から遠く、道路側に面した場所に避難する事とアドバイスを受けている。設備会社からは毎月点検があり、職員もコンセントや漏電による発火の危険性も周知を図っている。他の福祉施設との避難時受入れ相互協力体制や地域住民の協力と一緒に避難訓練も行っている。	このグループホームで想定される災害時(火災、水害、停電等)の検討や対応方法、万が一の場合の食料や水、寒さを凌げる為の防寒具等の備蓄の検討が望まれる。消耗品としてどのように活用するか、保存品としてどのような物が適当か職員や家族、地域と一緒に検討が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーの確保を常に考え、声かけや態度に気を付け対応している。	基本的には名字で呼び、さり気ない声かけで誇りを失う事がないように支援をしている。職員が主導権を持つのではなく、いつも利用者主体に関われるように、職員同士の会話にも人格の尊重やプライバシーを損ねる事がないように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を引き出せる様日常の中で声かけているが、本人の意思や思いを十分に引き出せていない部分もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを把握し、出来る限り入居者一人一人のペースを大切に、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容がほとんどであるが、パーマ、毛染め等本人からの希望に沿った対応をしている。また、日常では入居者によって髪型を整えたり、洗面後クリームを使っている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や後片付けを一緒に行い、入居者と一緒にスタッフも食事を摂り、楽しんで頂いている。肉や麺類が苦手な方には、他の物で対応している。	毎食手作りの食事を提供され、職員と一緒に楽しんでいる。状態に合わせて刻みや、ミキサー食も工夫し、無理なく食べられるように支援している。町内の焼き肉に参加したり、回転寿司で外食も楽しんでいる。誕生日には手作りのケーキが用意され、皆でお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表にてこまめに確認し、摂取量の少ない方には好みの物や、ゼリー、主治医に相談し、エンシュアを処方していただき、必要に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の他に起床時、就寝時に口腔ケアを行っている。口腔機能の低下している方には、食前も促している。自力にて出来る方は、見守りにて行い、必要に応じ仕上げを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個別の排泄パターンを把握、入居者本人のリズムに合わせて、誘導を行っている。また、必要に応じて声かけさせて頂いている。	トイレでの排泄を基本として、声かけ誘導の支援が行われている。バルーン留置の利用者もおり、排泄作業を職員が行い、看護師が定期交換している。退院後の身体状況低下についても、原状回復に力を注いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケース記録にて、個々の排便状況を把握し、水分摂取や運動を促したり、乳製品を摂って頂くなどし、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者本人の希望を取り入れ、入浴日や時間を定めず、最低でも週2回入浴できるよう個別に沿った支援をしている。	週2回は入浴できるように支援している。普通の入浴が困難な利用者については、1階にある機械浴で安心して入浴を楽しんでもらっている。夏場の暑い時期や、体調が悪い時にはシャワー浴や清拭の対応で、清潔に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活ペースを把握し、昼夜問わず好きな時間に眠れるよう支援しているが、夜間眠れない様子が見受けられた場合には、本人のペースを保ちつつ、日中の活動量などについて検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服の内訳を見やすい位置に設置し、全スタッフがいつでも見れるようにしている。また、内服薬に変更があった際には、全スタッフが周知できるように連絡ノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々によって、レクリエーションや日常のお手伝いなど内容は異なるが、一緒に行なっていた楽しみのある生活を送っていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れ、暖かい季節は月に一度外出の機会を設けている。外出、外泊はご家族の協力を得て制限なく行っている。外出行事の際は、家族の方に案内を出し、参加を促している。	毎朝の体操から身体を慣らし、天気の良い日は近隣の散策、ホーム前で日光浴をしている。プランターで野菜の栽培や花で楽しみ、お茶や軽食で外の空気に触れている。留萌へ出かけ海辺でバーベキューを楽しんだり、リンゴの収穫で季節を味わったり、動物園で人気施設を体感する事もある。今後は低下がみられる利用者の対応について検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は入居者本人で管理されていたこともあったが、無くなったと何度か訴えあり、状況に応じ、本人や家族に了承を取ったうえで事務所にて管理し、必要に応じて手渡している。また、使用した金銭と残金、レシートを本人に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には、季節に応じた設えや入居者の写真などを掲示している。また、天気の良い日は日当たりもよく、居心地よく過ごしていただいている。ペットを飼育しているため、掃除や消毒には特に注意し清潔に努めている。	各ユニットは雰囲気も違い、それぞれの利用者に合わせて空間作りを工夫している。現在はクリスマスモードに設え、他の時期には季節が感じられるようにアレンジしている。沢山のソファが配置され、職員と一緒に日中をゆったりと過ごせるようになっていく。室温や室温に配慮し、体調が安定出来るように気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やホール、玄関前、窓際といろいろな場所に椅子を設置しており、好きな時に好きな場所で過ごしていただけるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の他、仏壇等自由に持ち込んでいただき、自宅で生活していた時と変わらない生活が送れるよう取り組んでいる。また、スタッフと一緒に作った作品や家族の方の写真などを掲示している。	居室はベット・カーテン・クローゼット・洗面台・箆箆・テレビが配置されており、自分の衣類や寝具、思い出の品や写真、寝具が沢山持ち込まれている。利用者は現状に合わせた使い易い居室となるように配置され、職員と一緒に作成した手作りの作品等も掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	定期的にアセスメント、モニタリングを行い、入居者一人一人の「出来ること」「分かること」に合わせた対応をとっている。安全面ではバリアフリーや手摺の設置、浴室には滑り止めマットを使用している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム永山亭		
所在地	旭川市永山4条22丁目4番12号		
自己評価作成日	平成25年11月17日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初より、各ユニット毎にパピオンとダックスフンドをアニマルセラピーとして飼育しています。来客の方には吠えたりしますが、入居者の方には吠えず癒しの時間を作ってくれています。また、車椅子の方も安心していただけるように、機械浴を設置することにより、楽しんで入浴していただいています。地域の方とも、町内会に入会し行事などに参加させていただくことにより、交流させていただく機会も増え、避難訓練にも駆けつけて下さっています。また、運営推進会議にも参加して下さっています。入居者の方には、一人一人のペースや意思を尊重し、安心して楽しくゆとりある生活を送っていただけるように、ゆったりとした時間を作ることや不快な刺激を取り除き明るく楽しくをモットーに支援させていただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901852-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(ユニット2アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、その理念をスタッフが理解した上で、一丸となり統一したケアができるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入会しており、行事やお祭りなどには積極的に参加させていただいている。また、日々の挨拶や、廃品回収への参加等により、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に入会しており地域との交流は図っているが、認知症の人に対しての支援の方法などを地域に向けて発信は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方や町内会の方、市の職員の方などからの意見を参考にサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員や地域包括の職員などと定期的に報告・連絡・相談・疑問点について質問などを行い、説明を受けると共に協力も得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングでの話し合いや、各自の勉強などで、どのようなことが拘束に該当するのか、拘束をしない支援は不可能か等を考え、該当する事例が発生した場合にはカンファレンスを行い検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を学ぶ機会は少ないものの、紫斑や発赤ができた際には、スタッフミーティングの際に検討会を開き、スタッフ間で共有すると共に原因の究明や防止に努めている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数名研修に参加し学ぶ機会があったが、スタッフ全員と共有し理解を深めるまでには至っておらず、また、活用も現在はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居時または改定時には、文章と口頭にて理解して頂けるように心がけており、また、疑問や不安があった場合には丁寧な説明をさせて頂き理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所窓口に意見箱の設置をするとともに、家族会の総会や運営推進会議に参加していただいた時などに意見や要望が聞けるようにしている。また、苦情や意見があった際には、スタッフに報告するとともに、速やかな対応をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングや申し送り等で、スタッフの意見や提案を聞ける環境を作っており、また、代表者もスタッフと積極的にコミュニケーションを図り、意見が言いやすい環境づくりに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度を設け、昇給や給料の見直しを行っており、また、社長通達を掲示し退勤しやすい環境づくりなどに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のスタッフ勉強会を行っており、1度に1名ではあるが、各自の調べたいことやスタッフ全員で内容を策定し行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通して他職種や他事業所との交流や意見交換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人や家族の方と面識を持ち、不安の軽減に努めている。また、入居後には積極的にコミュニケーションをとる事により気持ちや要望の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など、家族の方の思いや要望を聞けるよう信頼関係を築くと共に、意見や要望があった場合には納得をして頂けるよう話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の方が何を必要としているのかを見極め、問題の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な1日の流れは決まっているが、その中でも本人の生活形態やリズム等を尊重し柔軟な対応を心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が不安なく生活が出来るように、家族の方が一緒に参加できるような行事を考え、呼びかけを行い参加をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来ていただけるように、時間の制限などを設けずに対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流することが少ないため、スタッフ側から声掛けし、楽しんでいただけるように会話を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現状では、明確に意思を伝えられる方が少ないため、コミュニケーションを通し、本人の思いや把握に努め、スタッフ間で話し合い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方より知り得た情報や、本人との会話の中で知り得た情報をスタッフで共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションや、見守りを通し一人一人のペースや、心身状態、自立度などの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の方の意見や、スタッフからの話。また、モニタリングを全スタッフにて行いケアプランの作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の中にケアプランを反映させることにより、ケアプランに関心を持ち、気づきなどがあつた場合には記録への記入や申し送り時に共有するなどし、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に食事は常食としているが、嚥下や咀嚼の状況などに応じて刻み食やミキサー食などに変更し、食べていただくなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	旭川大学へのボランティアの呼びかけや、楽器演奏のボランティアなどをお願いし楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院可能な方に関しては、かかりつけ医に通院していただいているが、不可能な方に関しては往診などにて対応するなど本人の心身の状況などを考慮し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護スタッフによる、健康相談の実施や、バイタル測定、身体状況等知り得た情報を医師に伝え連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会や、病院関係者との連絡を取り、状況の把握に努め、退院後円滑に対応できるよう、家族の方と相談しながらすすめている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や、家族の方の意向を尊重し、医師と綿密な連携を図りながら、本人や家族の方が安心できるよう都度状況を報告している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、スタッフミーティングや定期的な訓練を行い、反省点などについての話し合いや、勉強会を行うとともに、心肺停止時の対応として人工呼吸の方法などを消防署職員の方から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加や協力して頂きながら、日中・夜間を想定しての避難訓練や、消防署職員の方の指導のもと、初期消火訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉かけがあった場合には、都度言葉かけなどについて話し合いを行い、尊厳ある接し方を全スタッフで心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを受け入れられる環境を大切にし、自己決定しやすいような言葉かけの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムやペース、心身の状況などを把握し、一人一人に合わせた支援を行い、希望などがある場合には可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思を伝えられる方には言葉かけにて衣服などを一緒に選び、伝えられない方には、好みを把握したうえで好みにあった身だしなみを支援している。また、訪問美容の対応も行っている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも会話をしながら食事をするなど楽しい雰囲気作りを心がけている。また、訴えができない方が多いため、小さな変化にも気づける体制づくりに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取表を用い確認することにより、制限のある方の水分量の把握や少ない方については代替品(ゼリーなど)で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時などに一人一人自室の洗面台にて行って頂いている。また、自力にて行われている方にも、声かけし口腔内確認をさせて頂き、磨き残しや口腔内の確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄間隔の把握に努めると共に、個々の排泄間隔に合わせ必要に応じてトイレ誘導や声かけなどを行い、出来るだけトイレでの排尿を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取表や排泄チェック表を用いながら、状況の把握を行い、毎日の体操や水分を促すなど、個々に応じた便秘予防や医師との連携を図り緩下剤や座薬などにて排便のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯などは基本的には決まっているが、本人の意思を出来るだけ尊重し、ゆっくりと入浴が出来るように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない程度に日中の活動を促し、自然な入眠が出来るように支援することや、昼夜逆転の防止を心がけている。また、夜間不眠が見られた際には、身体的負担を考慮しながら医師と相談し、眠剤の検討を行い服用していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用については医師からの話を全スタッフで把握し、経過観察している。また、服薬の内容や内訳に関しては、スタッフが見やすいところに配置し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化しているため、全員一緒に参加できるようなレクリエーションは難しいが、個々が参加できるような内容を検討することや、月1~2回程度誕生会や外出レクなども含め検討し少しでも楽しみのある生活を送っていただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在自ら希望される方はいないが、行事予定での外出や天気の良い日には散歩などに誘い出かけている。また、家族の方の面会にて、希望がある場合には、体調不良などの理由のない限り外出や外泊をさせていただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在全員が事務所管理にてスタッフが対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、対象者がいないため行っていないが、希望がある場合は、その都度対応できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には、季節に応じた展示物を掲示し季節が感じられるような設えを心がけている。また、室温や湿度にも注意しており、パネルヒーターの調整や冬季の間は加湿器など使用し、不快な刺激の排除を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを少し離れた位置に配置することや、一人がけのソファを設置することにより、いつでも好きな時に入居者同士がくつろげる空間づくりを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リロケーションダメージを出来るだけ軽減できるように、入居時に家族の方と話し合い、生活の場の再現が出来るように配慮している。また、スタッフと制作した作品や写真などを飾り、心地よく過ごせる空間づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面では手すりや、入浴時には滑り止めマットを使用するなどし注意を払っている。また、身体の状態や要望等に応じた対応を心がけている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 永山亭

作成日：平成 25年 12月 17日

市町村受理日：平成 25年 12月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は定期的に行っているが、議事録を出席していない家族の方などに、配布しておらず、情報を共有する事ができていない。また、検討内容は施設側のみで提案しており、参加者やご家族の意見を取り入れていない。	議事録を欠席者やご家族の方に配布する事で情報の共有が行え、また、様々な意見を取り入れる事で会議内容の充実を図る。	欠席者・ご家族の方へ配布する議事録を、会議内容のアンケートがとれるような書式にする。	3か月
2	35	年2回日中・夜間想定した避難訓練は行っているが、地震や水害、停電などへの備蓄はできていない。	大規模災害が起こった時、旭川の指針では3日分の食料、水を確保して欲しいと言われているため、指針に沿えるような備蓄を行う。また、冬季の災害も予測されるため、カセットコンロや寒さをしのげるような防寒具等の備蓄も合わせて進めていく。	食材購入時、備蓄可能な食材(レトルト食品、缶詰、カップ麺、乾面、パックご飯等日持ちする物)を少しずつ購入していき、備蓄量を増やしていく。カセットコンロ、防寒具、ポータブルストーブの購入。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。